

リンゴ褐斑病の発生が早く、今後多発が懸念されます

7月上旬に宇都宮市、矢板市の7ほ場を調査した結果、リンゴ褐斑病が全てのほ場で確認され、平年に比較し早く発生が認められています（表1）。昨年秋期の発生が多かったためほ場内の胞子密度が高く、6～7月上旬に多雨や寡照が続いたことが要因と思われます（図）。

多発した場合、収穫期間中に早期落葉し収量に影響を及ぼすため、既に発生しているほ場や昨年多発したほ場では特に注意が必要です。

表1 発生状況(%)

年度	7月上旬		8月上旬		9月上旬	
	ほ場率	葉率	ほ場率	葉率	ほ場率	葉率
R2（2020）	100	0.3	—	—	—	—
R1（2019）	0	0.0	100	1.4	100	5.9
H30（2018）	0	0.0	0	0.0	50	1.5
H29（2017）	0	0.0	0	0.0	75	1.9
H28（2016）	0	0.0	0	0.0	50	0.0
H27（2015）	0	0.0	0	0.0	33	0.0
H26（2014）	0	0.0	17	0.0	33	0.0
H25（2013）	0	0.0	0	0.0	0	0.0
H24（2012）	0	0.0	33	0.7	—	—
H23（2011）	0	0.0	0	0.0	—	—
H22（2010）	0	0.0	0	0.0	—	—
平年値	0	0.0	15	0.2	49	1.3

※9月調査はH25(2013)年度～、平年値は7年間の平均

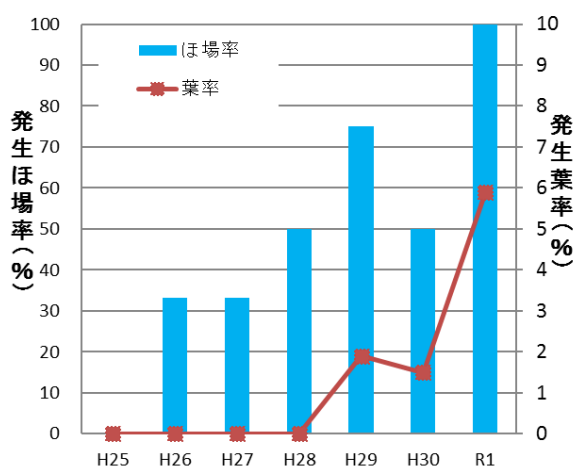


図 発生ほ場率・発生葉率の推移(9月上旬)

1 褐斑病について

- ・一次伝染源は前年の被害葉である。晩秋から落葉上に子のう殻が形成され、開花前頃には子のう胞子が成熟し、開花期から落花30日後頃まで子のう胞子が飛散し感染する。病斑上に形成された分生胞子が二次伝染源となり、生育期間中の降雨により胞子が飛散し発生を繰り返す。
- ・発病適温は20～25℃、多湿(多雨)条件で多発生する。特に、5～6月が低温多雨の年に発生が多い。近年、発生が多い園では早期落葉による収量減、花芽着生不良など影響が大きいほか、近隣園地へ感染も懸念されるので、地域単位での発生状況に応じた防除が必要である。



写真 葉の黄化がみられ病斑部周辺に葉色を残す（左）、樹冠内部が罹病しやすい（中央）不定形褐斑（右上）、分生子層が虫糞状(黒点小粒)（右下）

2 防除対策

- ・予防散布による防除を基本とし、予防効果の高い剤を中心に定期的に防除する。
- ・ほ場内を良く観察し、発生が確認されたらトップジンM水和剤等、治療効果の高い剤を使用する。
- ・耐性菌発生防止のため下表のRACコードを参考に、同一系統の薬剤を使用しないようローテーション散布する。

＜次年度に向けた対策＞

- ・一次伝染源の密度を減らすため、落葉は集めて園外に持ち出し、土中に埋めるなど適正に処理する。
- ・密植園や過繁茂による通風不良園では、樹冠内部の枝葉に薬剤がかかりにくく、葉も軟弱で感染・発病しやすくなるので樹形の改善を行うとともに園内環境整備を徹底する。

表2 リンゴ褐斑病に登録のある主な薬剤 令和2（2020）年6月30日現在

農薬の名称	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤使用回数	有効成分の名称	有効成分の総使用回数	RACコード
トップジンM水和剤	1000～2000倍	散布	収穫前日まで	6回以内	チオファネートメチル	10回以内（塗布は3回以内、灌注は1回以内、散布は6回以内）	F:1
ベンレート水和剤	2000～3000倍	散布	収穫前日まで	4回以内	ベノミル	4回以内	F:1
オンリーワンフロアブル	2000倍	散布	収穫7日前まで	3回以内	テブコナゾール	3回以内	F:3
パレード15フロアブル	2000～3000倍	散布	収穫前日まで	2回以内	ピラジフルミド	2回以内	F:7
ストロビードライフロアブル	2000～3000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	クレソキシムメチル	3回以内	F:11
ファンタジスタ顆粒水和剤	3000～4000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	ピリベンカルブ	3回以内	F:11
ポリオキシンAL水和剤	1000倍	散布	収穫3日前まで	3回以内	ポリオキシン	5回以内（散布は3回以内）	F:19
ICボルドー412	30～50倍	散布	-	-	銅	-	F:M01
オキシラン水和剤	500～600倍	散布	収穫14日前まで	4回以内	1. キャプタン 2. 有機銅	1. 6回以内 2. 7回以内（塗布は3回以内、散布は4回以内）	F:M04・M01
オーソサイド水和剤80	600～800倍	散布	収穫前日まで	6回以内	キャプタン	6回以内	F:M04
アリエッティC水和剤	800倍	散布	収穫前日まで	3回以内	1. キャプタン 2. ホセチル	1. 6回以内 2. 3回以内	F:M04・P07
ベルコートフロアブル	1000～1500倍	散布	収穫前日まで	6回以内（但し、開花期以降散布は3回以内）	イミノクタジナルベシル酸塩	8回以内（液剤及び水和剤は合計6回以内（開花期以降は3回以内）、塗布剤は2回以内）	F:M07
ダイパワー水和剤	800～1000倍	散布	収穫前日まで	6回以内（但し、開花期以降散布は3回以内）	1. イミノクタジナルベシル酸塩 2. キャプタン	1. 8回以内（液剤及び水和剤は合計6回以内（開花期以降は3回以内）、塗布剤は2回以内） 2. 6回以内	F:M07・M04

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「農政部ツイッター(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。



6月～8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。
いつものチェック！ 農薬を使用する際は、ラベルをよく読み正しく使しましょう！